

みょうぎさん 妙義山

がいよう 概要

あかぎさん はるなさん とも じょうもうさんさん ひと かぞ きゅうこうばい しゃめん とが すがた とくちょうてき
赤城山、榛名山と共に上毛三山の一つに数えられる。急勾配の斜面と尖った姿が特徴的である。また、

くに めいしょう してい にほん ひゃっけい せんてい
国の名勝に指定され日本百景に選定されている。

みょうぎさん はくうんやま きんほらやま きんにわとりやま そうま がく みたけ ちょうす あたま あ そうしょう みなみがわ おもてみょうぎ
妙義山は、白雲山・金洞山・金鷄山・相馬岳・御岳・丁須ノ頭などを合わせた総称で、南側の表妙義

きたがわ うらみょうぎ わ とく しもにたがわ ちょうぼう きんほらやま ひょうこう べつめいなかのだけ
と北側の裏妙義に分かれている。特に下仁田側から眺望できる金洞山（標高1104m）は別名中之嶽と

よ した きがん み みょうぎさん なか なかゆきだけ けしき あっかん ちゅうふく
呼ばれ、親しまれてきた。奇岩がいたるところに見られる妙義山の中でも中之嶽の景色は圧巻で、中腹を

めぐる だい1いしもん だい いしもん はじめ いわ たいほういわ ひつどういわ いわ こむそういわ
巡る第1石門から第4石門を始め、ロウソク岩・大砲岩・筆頭岩・ユルギ岩・虚無僧岩といったユニークな

なまえ がんせきぐん にほんくつし さんがくび たた いしもんめぐり なかのたけじんじや はつちやくてん
名前の岩石群は日本屈指の山岳美と讃えられている。石門巡りコースは中之嶽神社が発着点となってい

みょうぎさんとうめんちゅうふく そうごん みょうぎじんじや こんりゅう えど じだい ひ ふ かみなりよ れいけん
る。妙義山東面中腹には荘厳な妙義神社が建立されている。江戸時代には火伏せや雷除けの靈験が

しん みょうぎさん あんざんがん ようがん ぎょうかいがん れきがん でき まんねんまえ
あると信じられていた。妙義山は安山岩の溶岩、凝灰岩、礫岩で出来ており、いまから700万年前の

ふんか しゅつげん かざん ご ふうか しんしよく かざん ないぶ たつ げんざい あらあら さんよう
噴火で出現した火山が、その後の風化・浸食が火山内部まで達したことで現在のような荒々しい山容にな

かんが
ったものと考えられる。

みょうぎさん ちな なまえ 妙義山に因む名前

- ぐんま けんない しょうがっこう うんどうかい くみわ じょうもうさんさん なまえ もち あかぎだん はるなだん
群馬県内の小学校では、運動会の組分けを上毛三山の名前を用いて、「赤城団」「榛名団」

みょうぎだん くみ たいこう れい たすう そんざい ちいき こと にんずう すく あかぐみ しろう
「妙義団」の3組とし、対抗させる例が多数存在する(地域によって異なり、また人数が少ないと紅組、白

ぐみ ばあい
組とする場合もある)。

- みょうぎさんほくろく なが なかきがわ けんせつ みょうぎさん みょうぎこ
妙義山北麓を流れる中木川に建設された中木ダムのダム湖は、妙義山にちなみ妙義湖と

なづ
名付けられた